

環境経営レポート

[2022年度 2022/4~2023/3]



株式会社 ユウキ工業

2023年6月29日

1. 株式会社ユウキ工業の事業概要

(1) 事業者名及び代表者名

株式会社 ユウキ工業
代表取締役社長 北澤 芳恵

(2) 所在地

〒252-0254 神奈川県相模原市中央区下九沢 1093-1

(3) 対象範囲 : 全社 全組織

金属加工部品の製造及び販売

(4) 環境管理責任者

北沢 隆和

(5) 担当者連絡先

〒252-0254 神奈川県相模原市中央区下九沢 1093-1

連絡担当者: 北沢 隆和

T E L : 042-700-8070 F A X : 042-779-8702

E-mail : info@yuki-k.co.jp

(5) 事業概要 (2023年4月1日現在)

①主な事業: 金属加工部品の製造及び販売

②資本金: 1000万円

③従業員数: 27人

④床面積: 998.27 m²

⑤生産量

	2020年度	2021年度	2022年度
生産量 (トン)	168	164	133



2. 環境経営方針

－株式会社ユウキ工業 環境経営方針－

当社は、金属加工部品の製造業者として、地球環境・地域環境に配慮し、環境保全活動を推進し、次に示す環境経営方針を定める。

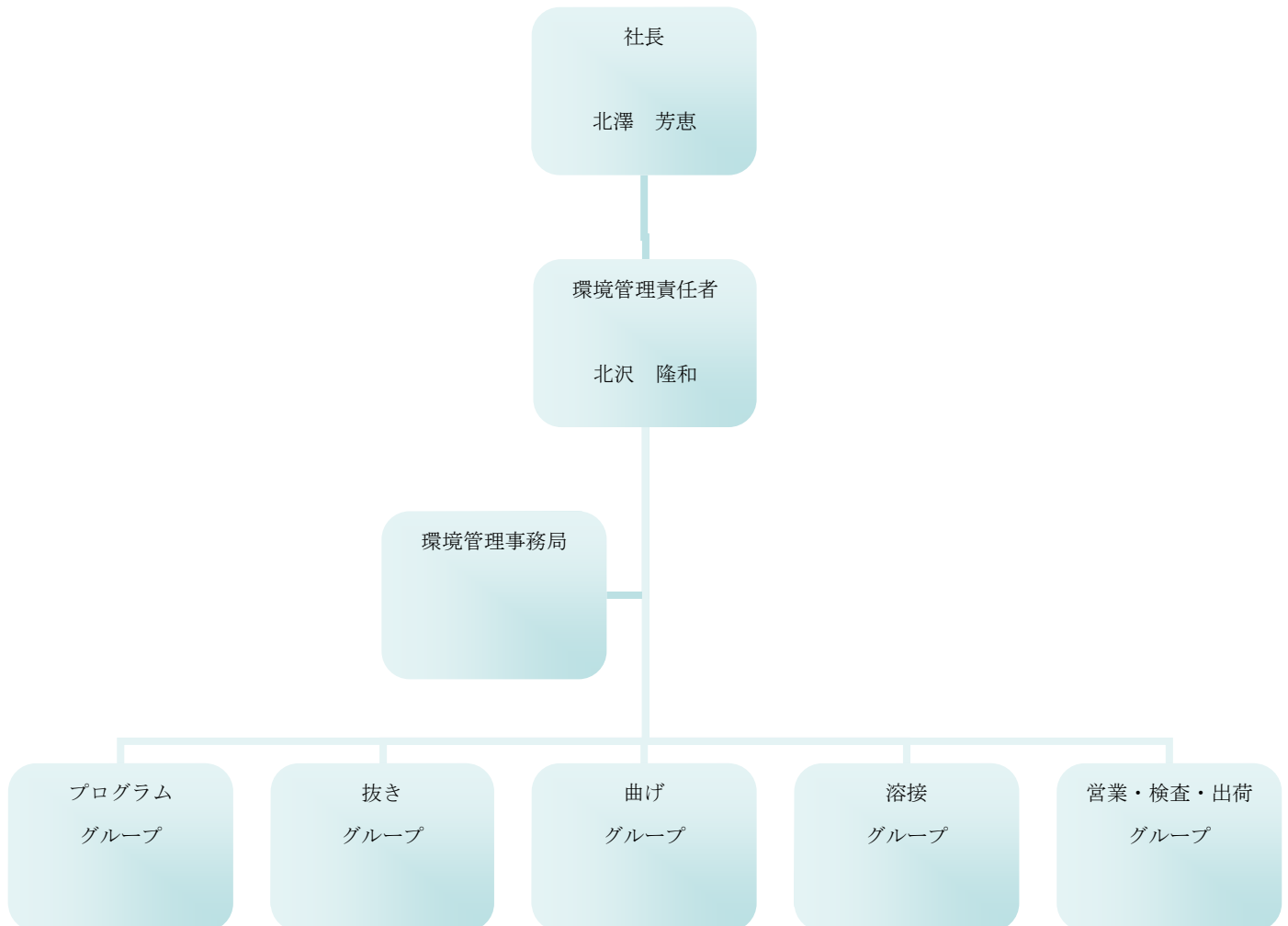
1. 環境目経営標を設定し、主に以下の項目を取組むことによって、環境負荷を改善する。
 - (1) 廃スクラップ金属の削減
 - (2) 不良削減
 - (3) 可燃ゴミの削減
 - (4) 電力使用量の削減
 - (5) ガソリンの使用量削減
2. 関連する環境関連の法規制、条例及びその他の要求事項を順守する。その他の要求事項では、有害物質含有禁止に関する顧客要求に対し、管理を徹底して遵守することを重点項目とする。
3. 環境経営システムを確立し、見直しを行って、その継続的改善及び汚染の予防を行い、維持する。
4. 従業員に教育を行い、全員参加による環境保全活動を実行する。
5. 環境経営方針を含めて記述した環境経営レポートを作成し、利害関係者等からの要求に応じて配布、公表し、社内外への情報提供を行うことによって、積極的な環境コミュニケーションに取り組む。

2020年6月15日改訂
株式会社 ユウキ工業
代表取締役社長 北澤 芳恵



3. 環境経営システム組織体制

株式会社ユウキ工業 環境経営システム組織図
(2023年4月1日現在)



4. 環境負荷実績

項目	2020年度	2021年度	2022年度
CO ₂ 排出量(kg-CO ₂)	153,048	151,488	165,514
水使用量 (m ³)	405	424	426
廃棄物等排出量 (t)	60.60	58.53	53.42
総物質投入量 (t)	229	226	189

電力のCO₂排出係数は「0.441kg-CO₂/kwh」(2020年度 東京電力エナジーパートナー(株)調整後係数)を使用。



5、環境経営目標

株式会社ユウキ工業 2022 年度～2024 年度 環境経営目標

大項目	項目名	2022 年度	2023 年度	2024 年度
廃棄物削減	金属スクラップの削減	購入金属材料に対する金属スクラップ比率を25%以下にする (2008 年度 13.74%)	購入金属材料に対する金属スクラップ比率を24%以下にする (2008 年度 13.74%)	購入金属材料に対する金属スクラップ比率を23%以下にする (2008 年度 13.74%)
〃	不良削減	月平均の発生件数を前年度実績より 5 件減らす。	月平均の発生件数を前年度実績より 5 件減らす。	月平均の発生件数を前年度実績より 5 件減らす。
〃	可燃ごみの削減	2021 年度対比 1%削減とする	2022 年度対比 1%削減とする	2023 年度対比 1%削減とする
CO2 削減	ガソリンの使用量の削減	2021 年度対比 総量 1%削減	2022 年度対比 総量 1%削減	2023 年度対比 総量 1%削減
〃	電力使用量の削減	売上高当り 2021 年度実績に対し、1%削減	売上高当り 2022 年度実績に対し、1%削減	売上高当り 2023 年度実績に対し、1%削減
〃	CO2 総排出量削減	2021 年度比 1%削減	2022 年度比 1%削減	2023 年度比 1%削減
節水	水使用量の削減	2021 年度対比 現状維持とする	2022 年度対比 現状維持とする	2023 年度対比 現状維持とする
その他	5S 活動の推進 健康経営	5S 活動の 継続実施 ラジオ体操の継続	継続実施	継続実施
化学物質削減	洗浄液の代替品 検討	代替品の調査	代替品の調査	代替品の調査

※「化学物質削減」に関し、PRTR 法対象物質については、少量使用している。使用量削減より「代替」を目指しており、数値目標を設定していない。



6. 主要な環境経営計画の取り組み内容

株式会社ユウキ工業 2022年度 環境経営計画の主な実施項目

項目名	主な施策
金属スクラップの削減	<ul style="list-style-type: none">・作業標準書見直し・作業改善を図る
不良削減	<ul style="list-style-type: none">・不良件数の削減
可燃ごみの削減	<ul style="list-style-type: none">・分別の徹底
ガソリンの使用量の削減	<ul style="list-style-type: none">・効率の良い運行をする
電力使用量の削減	<ul style="list-style-type: none">・エネルギー・水使用がトラインの実践（エアコンの管理、照明の管理、待機電力の管理等）・節電の管理・作業標準書見直し・不良削減・作業改善を図る・機械メーカーによる設備メンテナンス及び各担当者による設備メンテナンスによる生産効率向上
CO2 排出量の削減	<ul style="list-style-type: none">・電気量・灯油・ガソリン使用量の削減
水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none">・エネルギー・水・紙の使用がトライン(YE-0802)の実践（台所・トイレの節水、掃除時の節水等）
社内エコ活動・健康経営	<ul style="list-style-type: none">・5S 活動の継続実施 ラジオ体操実施
化学物質削減	<ul style="list-style-type: none">・代替品の調査



7 環境経営目標及び環境経営計画の取組結果の実績と評価
及び次年度の環境経営目標及び環境経営計画

株式会社ユウキ工業 2022 年度の取組結果と評価

No.	実施項目	評価	目標達成度	実施内容と分析、是正・予防処置
1	廃金属スクラップの削減	×	目標： スクラップ率 25%以下 2022 年度実績： 30.1%	前年度末の機械の入れ替えに伴い厚い板加工品やパイプ加工品が増加した。機械の性能を最大限活用する事を前提としながらも、スクラップ比率の低い機械での製作も選択肢とする事で次年度は削減へと繋げる。
2	不良削減	×	目標:月発生件数を前年度 実績 5 件減 2021 年度実績: 月 13.5 件減 2022 年度実績： 月 4.8 件増加	前年度より不良発生件数が増加した結果となった。 内容について分析を実施し、同内容の不良が多発している事が判明した次年度は同類の不良を削減する事から取組み全体件数の削減に繋げる。
3	可燃ごみの削減	×	目標：2021 年度排出実績 に対して 1%削減 2022 年度実績: 4%増加 2021 年度 766.4kg 2022 年度 797.2kg	紙専用のゴミ箱の増設等、削減の取組は実施したが、結果としては増加となってしまった。 梱包廃材の分別等細かな点の見直しを行い、削減へと繋げたい。
4	社用車ガソリン使用量の削減	○	目標：2021 年度比総量 1%削減 2022 年度実績: 5.6%削減 2021 年度： 3,322.6ℓ 2022 年度： 3,137.8ℓ	宅配便の利用やチャーター便の活用等から遠方への納品が減少した結果と思われる。 短納期品の受注が多い事から、予定通りの走行は困難な面もあるものの引き続き効率の良い走行を継続する。



5	電力使用量の削減	×	<p>目標：売上高当り 2021 年実績に対し、1%削減</p> <p>2022 年度実績： 18.4%増加</p> <p>2021 年度:0.582kwh/千円 2022 年度 0.689kwh/千円</p>	<p>機械の大型化の影響もあるものの夏場の電力使用量が大幅に増加している事から猛暑の影響も大きな要因と思われる。引き続き不要な電気の消灯等細かな活動を継続する。</p>
6	CO2 排出量の削減	×	<p>目標:2021 年度比 1%削減</p> <p>2022 年度実績： 9%増加</p> <p>2021 年度:151,488 Kg-CO2 2022 年度:165,514 Kg-CO2</p>	<p>CO2 排出に関わる、ガソリンや冬場の灯油使用量が減少したが、電力使用量の増加幅が大きく増加の結果となってしまった。</p> <p>電力使用量の増加要因は、受注内容の変化等の影響は大きいものの、CO2 排出量削減は今後の活動においては大切な項目と捉えている事から、次年度は削減へと繋がる行動を意識したい。</p>
7	水使用量の削減	×	<p>目標：2021 年度対比現状維持(総量)</p> <p>2022 年度実績： 0.5%増加</p> <p>2021 年度：424 m³ 2022 年度：426 m³</p>	<p>受注内容に依り大きく異なる結果となる使用量で僅かではあるが増加となってしまった。</p> <p>再度生活排水の見直しを行いながら次年度は削減へと繋げたい。</p>
8	社内エコ活動 健康経営	○	<p>5 S 活動の推進 ラジオ体操実施</p>	<p>5 S 活動やラジオ体操の実施が継続できた。健康経営の取り組みを開始し健康経営優良法人 2023(中小企業法人部門)の認定を受ける事が出来た。。次年度も同様に継続する。</p>
9	化学物質削減	△	<p>洗浄液の代替品を検討</p>	<p>調査はしているものの、同等の代替品は見つかっていない。</p>



8. 次年度の環境経営目標

大項目	項目名	2023 年度	2024 年度	2025 年度
廃棄物削減	金属スクラップの削減	購入金属材料に対する金属スクラップ比率を25%以下にする	購入金属材料に対する金属スクラップ比率を24%以下にする	購入金属材料に対する金属スクラップ比率を23%以下にする
〃	不良削減	月平均の発生件数を前年度実績より3件減らす。	月平均の発生件数を前年度実績より3件減らす。	月平均の発生件数を前年度実績より3件減らす。
〃	可燃ごみの削減	2022 年度対比1%削減とする	2023 年度対比1%削減とする	2024 年度対比1%削減とする
CO2 削減	ガソリンの使用量の削減	2022 年度対比総量1%削減	2023 年度対比総量1%削減	2024 年度対比総量1%削減
〃	電力使用量の削減	売上高当り2022 年度実績に対し、1%削減	売上高当り2023 年度実績に対し、1%削減	売上高当り2024 年度実績に対し、1%削減
〃	CO2 総排出量削減	2022 年度対比1%削減	2023 年度対比1%削減	2024 年度対比1%削減
節水	水使用量の削減	2022 年度対比現状維持とする	2023 年度対比現状維持とする	2024 年度対比現状維持とする
その他	5S 活動の推進 健康経営	5S 活動の継続実施 ラジオ体操の継続	継続実施	継続実施
化学物質削減	洗浄液の代替品検討	代替品の調査	代替品の調査	代替品の調査



9. 環境関連法規への違反

(1) 該当環境関連法規と違反状況, 及び訴訟等の有無

No.	法規制等の名称	評価	違反内容
1	下水道法及び 相模原市下水道条例	○	なし
2	廃棄物処理法	○	なし
3	相模原市廃棄物の減量化、資源 化及び適正処理等の推進に関 する条例	○	なし
4	騒音規制法 及び神奈川県生活環境の保全 等に関する条例	○	なし
5	振動規制法 及び神奈川県生活環境の保全 等に関する条例	○	なし
6	家電リサイクル法	○	なし
7	自動車リサイクル法	○	なし
8	消防法 及び 相模原市火災予防条例	○	なし
9	相模原市開発事業基準条例	○	なし
10	神奈川県生活環境の保全等に 関する条例	○	なし
11	高圧ガス保安法	○	なし
12	RoHS 指令	○	なし
13	グリーン調達基準	○	なし
14	フロン排出抑制法	○	なし

上記の通り環境関連法規への違法はありませんでした。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。又、訴訟等もありません。



10. 代表者による全体評価と見直しの結果(2023年6月14日)

(1) 環境経営方針

環境経営方針は継続する。

(2) 環境経営目標及び計画

目標未達成項目が増加してしまった。目標値自体が現状の受注形態では困難と思われる数値もあるものの、目標値を高く意識する為、金属スクラップ、可燃ゴミ電力使用量の削減目標は継続する。不良削減数値については、現状を鑑みた数値に変更する。

(3) 社会・取引先・法律等への対応

法規制については年間を通じて遵守できた。新たな法規制や変更点があれば情報を入手し、対応できる体制を維持する。

(4) 実施体制及びシステムのその他の要素

今年度は事務局メンバーを交代した。数年前の事務局経験者である為、前回の経験を基に意見交換が出来た。次年度も同メンバーで継続する。

以上

